

2016年度タイ研修報告書

大崎雅一・清水隆明

行動記録

2月15日（水）

13時に関西空港に集合。定時に離陸、予定より少し早く9時50分にスワンナプーム空港に到着。ホテル着したのは12時であった。

2月16日（木）

8時半から学長とのセレモニーがあるため、6時半起床し、7時45分にホテルを出る。学長は休暇のため学長代理と国際交流担当副学長とのセレモニーとなる。大学はオープン・ユニバーシティとしてテレビももっており、毎日新聞も発行しているので、ビデオとカメラの取材をうけながらの挨拶で、初めての清水先生と学生たちは驚いていた。恒例のプレゼントの交換のあと、今年初めて来られた清水先生の紹介をする、副学長は医療経営にとっても興味をもたれて、質問攻めで通訳に苦勞する。あとで、シラバスを送付することにした。

大学間協定が今年で5年目をむかえました。国際交流担当の副学長から、ラームカムヘン大学としては、延長していた

だければうれしいと言われました。詳細については、日本語学科の先生たちと詰めることにする。今年は副学長が、突然学生たちに自己紹介をするようにと言われましたが、学生たちはつたない英語でしたが、なんとか恥をかかずに自己紹介をしました。これも、大変友好的な雰囲気の中での出来事なので、学生たちも緊張しながらも、あがらず出来たと思われま



一旦日本語学科の共同研究室に移動し、お土産などを渡してしばし休憩する。10時から副学部長の挨拶で交流会がはじまりました。今回は私も事前に挨拶を送っていたので、通訳の学生も立派にやってくれました。そのあと、歓迎のタイ舞踊などプログラム通りにつづきました。今回は、参加者どおしのコミュニケーションが円滑に行えるように、交流会の初めにアイスブレイクとして簡単なゲームと書道実習をおこなった。タイの大学では、アイスブレイクなどは普通に行われているそうです。書道も日本語を学ぶ学生にとって初めての体験で、これで積極的に関わる雰囲気ができました。

お昼は、学食から取り寄せてもらっており、ランチ・バイキングでした。辛い料理で、学生たちもよく食べていま

した。食事の時も、タイ人と仲良くなるようにバラバラに座らせたり、いろいろ配慮してくださりました。

午後は発表です。今年のテーマは医療制度についてでした。どちらの学生たちも苦勞したのですが、立派に発表がすみました。ラームカムヘン大学が一番日本語ができる4年生が担当で、これは素晴らしいもので、専門の清水先生がいろいろと質問していました。我々の発表は、少し漢字が多すぎて、1年生には読めない部分がおおかったようです。

最後はムエタイの演武でした。途中で、うちの学生たちも参加して、いろいろと技を教えてもらっていました。

3時前に交流会は終わり、共同研究室で少し休憩した後、教員同士で今日の反省会と来年の打ち合わせ、また、ラームカム



ヘン大学から提案された新しい協定書の検討をおこないました。私たちの、今までの活動を見直す良い機会となりました。

3時半からは、若林先生の通訳の講義に私と清水先生が参加しました。ここの講義は、1時間50分で、結構しんどいものでした。この間に、学生たちは学内の見学をしていました。学生たちは、バドミントンをして遊んでいたそうです。すっかり、学生通し打ち解けた様子でした。

講義が終わり、大学のそばのレストランでラームカムヘン大学のスタッフと会食し、ご馳走になりました。例年、学生たちが来るのですが、今年はタイミングが悪かったのか、学生たちは参加しませんでした。今年も、卒業生の村崎愛さんに、大変お世話になり、無事交流会を終えることができました。



2月17日（金）

7時15分にホテルを出て、大学に7時30分に集合でした。案の定、タイの学生が寝坊して遅れましたが、8時には大学を出て大学の観光バスでアユタヤに行く。

これは通訳実習の一環で、学生たちは遺跡ごとにパンフレットを作ってくれていて、案内してくれました。パンフレットは、年々立派なものになっており、他の大学で日本語をおしえている卒業生たちも感心していました。

お昼は、ホテルで中華料理でした。袋茸の炒め物、トムヤンクンも辛いもの（タイ人の感覚で!）、辛い料理を用意していただきました。

国立博物館では、スタッフが説明してくれて、学生たちが一



生懸命通訳を試みたのですが、専門用語を日本語に訳せずに、考古学などの専門用語の翻訳の難しさを実感しました。この後、お土産を買いに水上マーケットに寄り、渋滞のために遅れて、7時過ぎに大学に帰ってきました。タイの学生からキーホルダーやお菓子のお土産をもらうなど、大変ありがたい1日でした。

今夜は、卒業生の井上さんと壺坂さんがホテルまで来てくださり、近く中華料理店で会食しました。学生たちの感想などを聞いてみると、まだ2日目ですが、学生たちはすっかりタイに適應しているようでした。



2月18日（土）

11時から学生たちはラームカムヘン大学の学生たちの通訳で市内観光に行きました。清水さんと私は、卒業生の井上さんが午後病院に行くとのことで、同行し、タイの病院の仕組みなどを教えてもらいました。

その後、クイーンシリキット・ナショナルコンベンションセンターで、日本全国の都道府県と観光に力を入れている市が一堂に会した、観光イベントがあるということで、見に行ってきました。大変な人ばかりで、どこに何があるのかわからないような状態でした。でも、パンフレットによると姫路が来ていることがわかり、姫路のブースに行ってきました。そこで、姫路観光コンベンションビューローの専務理事である鍵本隆造氏の名刺をいただき、お話を聞きました。私は、迂闊なことに名刺を持っていず、後でメールをお送りし、タイでの研修内容などについて広告しておきました。

18時より市内の屋台村で卒業生との会食、村崎愛さん（ラームカムヘン大学）、井上雅司さん（タイ日工業大学）、壺坂健さん（商工会議所大学）の卒業生3人と、竹村さん（元ヨコレイ社長夫人・朝来市出身）

が出席していただいた。旦那さんはヨコレイを退職され、今はバンコクの弁護士事務所の顧問をしておられるそうで、いろいろとお忙しいようでした。学生たちに自己紹介をさせたら、太田君が竹村さんと同じ朝来市出身だとわかり、竹村さんと盛り上がっておりました。

2月19日（日）

11時にウィークエンドマーケットまで学生を送って行き、学生たちは、タイの学生たちの案内で市内観光に行きました。

私と清水さんは、今週見学する二つの病院の偵察です。まず、バムルンラード病院はシャトルバスの経路の確認。警察病院は、どこが入り口かわからないので、周辺を歩き回りました。さすが700病床ある病院で、かなり大きいところ。正面玄関を探し当てて、見学の目処は立ちました。その後、市内で夕食を済ませ、ホテルに帰る。市内観光に行っていた学生たちは、9時前に無事にホテルに帰ってきて、ホッとしました。学生たちは、体調は良いようで、すっかり適応していました。

2月20日（月）

今日から2日間、午前は10時から12時、午後は13時から15時までタイ語の研修。ラームカムヘン大学の学生たちが先生で、姫路独協大学生にタイ語を日本語で教えます。まずは、挨拶から始まって、自己紹介、買い物での値切り方など、実践的な会話を習いました。終わってから、学生たちはバドミントンをして楽しんだそうです。



2月21日（火）

この日は、タイ文字の学習。コーカイ（タイ語子音表で、朝日の「あ」のようなもの）を習いました。これは、初めての試みでしたが、学生たちもタイ文字をそれなりに識別できるようになり、来年以後も続けることにしました。

午後も学生たちはタイ語を学んでいましたが、私と清水さんは大使館に行く。病院見学のアポイントを取っていただいた阿部医務官にお礼を述べ、病院見学の打ち合わせをおこなった。

2月22日（水）

9時より警察総合病院の見学。電車が満員で乗れず、一本乗り遅れたため、ぎりぎりの時間でした。通勤時間と重なる移動は、もうすこし余裕をみる必要があります。

9時に入口でナワラート看護師（警察大佐）と落ち合い、病院のコンフェレンスルームに案内されました。そこには、院長のタナー医師（警察少将）、福祉担当のポンペン医師（警察少将）の他多くの人が出迎えていただきました。この日は、全てのやりとりはタイ語で行うため、ラームカムヘン大学の若林先生に通訳をお願いしました。

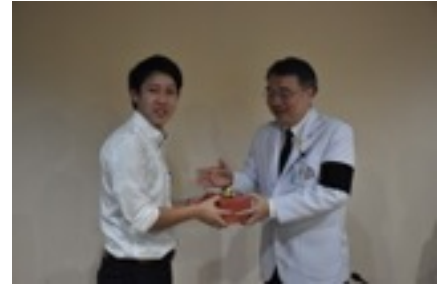
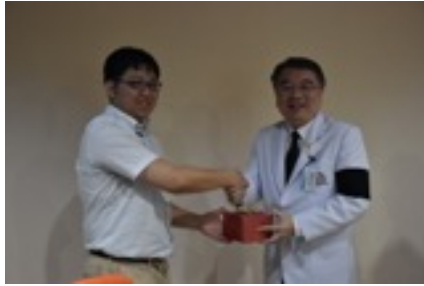
まずは挨拶から始まり、この国では恒例の記念品とお土産の交換へとつづきます。万が一の場合を想定してお土産を多めに持っていったすかりました。セレモニーの後、記念撮影をおこないました。

1時間30分ほどの見学、から1時間の”Health Care System in Police General Hospital”と題するプレゼンテーションで、警察総合病院の概要、タイの社会保険制度と幅広い内容でした。質疑応答の後、お昼をご馳走になり、12時半頃に病院をあとにしました。





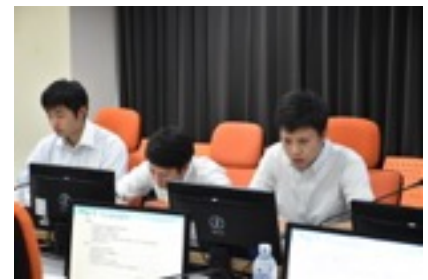
院長のタナー警察少将から歓迎の挨拶。



記念品の交換。



病院内の見学。タイ語通訳は、ラームカムヘン大学の若林先生。



福祉担当のポンペン医師（警察少将）から”Health Care System in Police General Hospital”と題するプレゼンテーション。

警察総合病院でご馳走になった、昼食。



2月23日（木）

車をチャーターし、バンコクから約60キロ離れたドンムアン空港の近くのナワナコン工業団地にあるNichirin (Thailand) Company Limited（株式会社ニチリンの海外子会社）の工場見学をおこなった。8時半にホテルを出て、工業団地の入り口にあるショッピングセンターでトイレ休憩と時間調整ののち、予定通りにNichirinに到着した。Nichirinでは、大野貴佳社長に対応していただいた。あらかじめ計画書などを送付してあったので、その内容についての手厳しい批判をいただいた。

会社の概況説明、そして大野社長のこれまでの経歴などをお伺いした後、工場を見学させていただいた。この工場は、二輪のブレーキに使う油圧のホースを製造している。ここでは部品であるホースをベトナムから、金具を日本とタイから仕入れて、これを組み立てるだけの会社との説明があった。したがって、部品を置く倉庫が工場の面積の大半を占めていて、作業を行う工場はコンパクトであった。



見学のあと、少し離れたところにある日本食レストランで昼食をご馳走になりました。かえってから、こんどは大野社長が学生たちに「働くならどこの国で働きたいか」という質問が出ました。これは、Nichirinが新人研修で行った同じ質問だそうで、どれだけ早く考えをまとめられるかを見るものであるとの説明でした。

学生たちの答えは、二人は中国、一人は朝来市というものでした。中国と答えた学生たちは、二人とも将来性を考えてのことでした。このような

経験は、来年の就職活動の時に役にたつと思われま

す。

帰りは、チャオプラヤー・エクスプレスの上流側の終点であるノンタブリーの埠頭まで車で行き、そこから船でチャオプラヤー川を下りました。ひとり19バーツ（60円弱）という、お手軽な船旅で川から見るバンコクを楽しみました。船は、王宮で降りて、ヒッチハイカーの聖地カオサンを見学に行き、その後、卒業生の井上さんと民主記念塔で落ち合い、市内で食事を済ませて、タクシーでホテルに帰りました。



2月24日（金）

最終日は9時半からバムルンロード病院の見学でした。朝、通勤ラッシュのため電車が満員で、3本目にやっと乗れて、時間に間に合いました。

バムルンロードインターナショナル病院は1980年開院され、2002年JCI国際病院認定をアジアで初めて取得した病院で、日本では聖路加国際病院など22の病院が認定を受けている。高度な医療水準をサービスは国際的に高く評価されており、特に医療ツーリズムを牽引する病院としても広く知られています（バムルンロードのホームページより）。年間受診者数11千人、世界190カ国以上から年間52万人がタイ国外から受診する病院で、現在、ベッド数 554 床および 30 の専門センターを持つ、東南アジア最大の私立病院である。



きた。個室の病室の見せてもらった。バストイレ付き、簡単なキッチンと電子レンジが備え付けられており、食事はホテルのルームサービスと同じように注文できるシステムである

昼前に見学を終え、市内で昼食をとり、夜の帰国にそなえてホテルに帰る。8時に車の迎えが来て、夜にもかかわらず渋滞に巻き込まれ、空港に着いたのが9時前であった。チェックインし、ルームカムヘン大学の学生が見送りに来てくれるというので、少し



病院では、医療コーディネーターの茨木栄梨医師と日系市場セグメント・マネージャーの田村優子氏が対応してくださり、「バムルンラード・インターナショナル病院のご紹介」というプレゼンテーションを受けて、この病院の概要の説明を受けた。このあと、病院の見学をさせていただき、日本語サービス課、診療室、検査室、病室などを見学させていただいた。

アラビア語、ビルマ語、中国語、日本語に対応したカウンターがあり、日本で立ち遅れている医療観光の実情を知ることがで



待

9時半に見送りの学生たちと最後の挨拶をして、イミグレーションへ向かうが、大混雑で出国手続きに時間がかかり、ボーディング時間ギリギリになった。定時少し遅れて離陸、帰りは少し揺れたが、定刻より早く6時10分に関空に到着し、ここで解散とした。

今年は休息日がなく、学生たちも疲れ気味であったが、病気も事故もなく研修を終えることができた。

謝辞

最後に、ルームカムヘン大学のプーペー先生、村崎愛先生はじめ日本語専攻の先生方と学生のみなさん、カルビー・タナワット社の大山副会長様と松尾社長様、Nichirinの大野貴佳社長、病院を紹介していただいた在タイ日本大使館医務官（一等書記官）阿部尚氏、病院見学を許可して下さったタイ王国国家警察病院院長のタナー警察少将、バムルンラード・インターナショナル病院の医療コーディネーターの茨木栄梨医師と日系市場セグメント・マネージャーの田村優子氏、そして、在バンコク卒業生の村崎愛さん（ルームカムヘン大学）、井上雅司さん（泰日工業大学）、壺坂健さん（タイ商工会議所大学）には、大変お世話になりました。皆様のおかげで、実りある研修を行うことが出来ましたことを感謝しております。